

# 仙台まるごとパス運営協議会における地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間  
20～22年度

「仙台まるごとパス」(\*)のPRを行い「定着」させ、仙台広域圏に来訪する国内及び海外からの旅行者・地域の住民による公共交通の利用促進と活性化を図ることを目的とする。

(\*仙台まるごとパス:交通事業者や沿線自治体・観光協会により構成される運営協議会において、エリア内を2日間乗り放題とする乗車券を販売。パスの提示により、観光、飲食施設等で割引・特別優遇サービスもある。販売価格は、大人2,600円、小人1,300円)

## 【構成団体】

### ●交通事業者

東日本旅客鉄道(株)仙台支社, 宮城交通(株), 仙台市交通局, 仙台空港鉄道(株), 阿武隈急行(株)

### ●自治体等

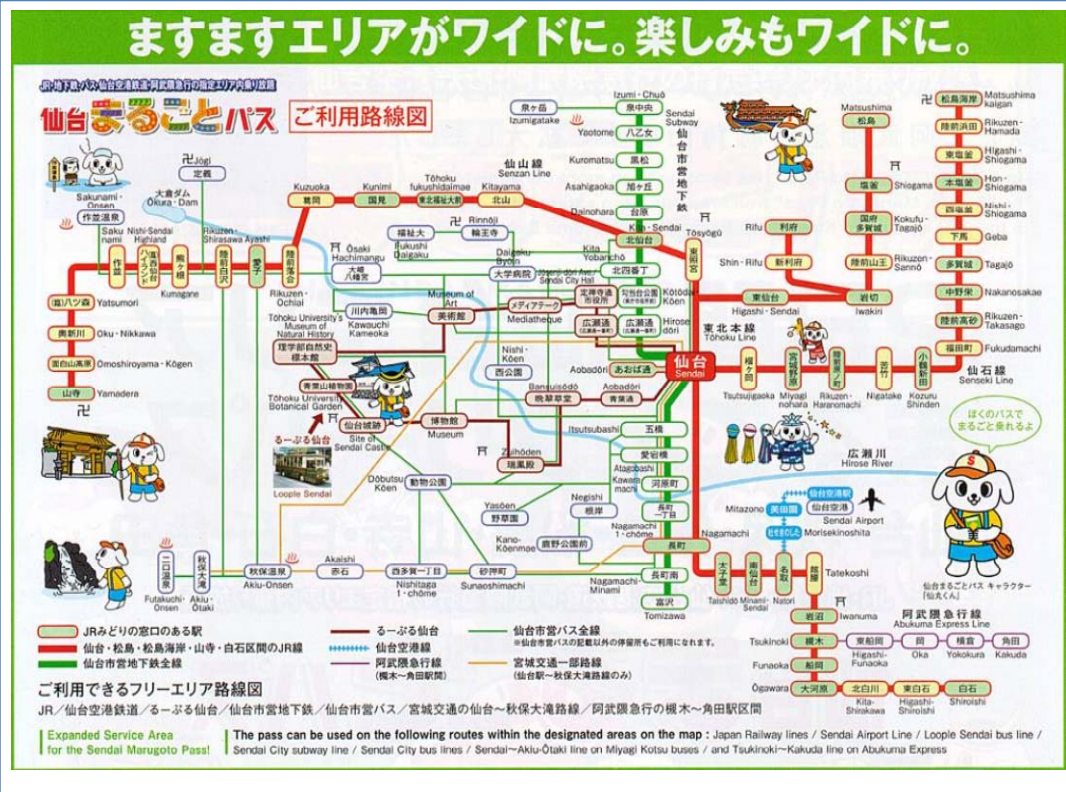
山形県, 宮城県, 宮城県観光連盟, 山形市観光物産課, 山形市観光協会, 山寺観光協会, 塩釜市観光物産協会, 岩沼市観光物産協会, 松島観光協会, 天童市, 天童市観光物産協会, 仙台商工会議所, 仙台市観光交流課, 仙台観光コンベンション協会

## 事業の概要(20年度)

(10,023千円)

### 1. 販売促進ツール等の作成

- ・パンフレット・ポスター
- ・外国人向けリーフレット
- ・クーポンブック
- ・外国人向けクーポン利用ガイド



### 2. 販売促進

- ・パスを用いた旅行商品に対する助成
- ・販売手数料の設定
- ・旅行商品パンフレット掲載用のデータ作成, 配布

### 3. 情報発信と告知宣伝

- ・旅行雑誌等への広告掲載
- ・テレビ番組を活用しての宣伝
- ・イベント, キャンペーンの際のパンフレット配布



## 導入 への プロセス

仙台圏域の観光客の交通利便性の向上による観光振興を目的として、平成16年7月よりパスの販売を開始。H20年度に仙台・宮城観光DCが開催されるため、仙台圏域への国内外からの来訪者に対しパスの利用を促すと共にパスの定着を図るためには、よりいっそうのPRが必要であることから、連携計画を策定し計画事業を実施。

外国語版として英語以外に中文(簡体字・繁体字)やハングル版を作成することにより、近年増加している中国・台湾・韓国からの来訪者にも対応

単なるPRに留まらず、特典・サービスを付加したクーポンブックを作成することにより、地域の観光や商業も活性化にも貢献。雑誌等への広告掲載では、パスの紹介に留まらず、周辺スポットの紹介やパスを使っての周遊のイメージ記事を掲載し、工夫を凝らした。

## 初年度 の効果

### まるごとパス利用増による公共交通の利用促進

まるごとパスの販売枚数は、H19年より約1,300枚増加(対前年度比107%)しており、本事業の目的である公共交通の利用促進が一層進んでいると考えられる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H19	1,342	1,795	1,327	1,443	2,238	2,041	1,668	2,026	1,321	700	1,088	1,519	18,508
H20	1,194	1,845	1,192	1,454	2,108	2,062	2,130	2,437	1,617	943	1,143	1,682	19,807

### 「活性化・再生総合事業」以外の地域活性化への効果

まるごとパスの購入者にはエリア内施設・飲食店などでサービスを受けられるクーポンブックを配布しており、パスの利用が増えると、クーポンも活用されることが想定されることから、単なる公共交通の利用促進だけでなく、地域経済の活性化につながっているものと分析している。

## 次年度 以降

更なる利用促進・普及のため、販売地域の拡大を図っていく。

JR東日本の特別企画乗車券であるため、パスの販売は基本的にJR東日本管内に限られている。切符の性質上難しい部分があるが、全国の他地域でも購入可能となるよう整備を進めることを検討していく。

旅行会社のパンフレットに掲載の場合、JR東日本管内ならパスを組み込んだ旅行商品を造成し、掲載することも可能であるが、エリア外だとパスの紹介のみ(購入は現地)に留まっているので、一層の工夫が必要。

エリア外でも、一部旅行会社とは提携して「クーポン券発行・仙台空港鉄道でパスと引き換え」という方法を取っているため、他の旅行会社へも拡大できないかどうか、検討していく。